



KUZUU

ROTARY CLUB NEWS

例会日 毎週火曜日
 例会場 榎才オガノ内 2F
 栃木県佐野市葛生西
 1-3-34
 TEL 0283(85)4451

2010～2011 RI 会長テーマ

「地域を育み、大陸をつなぐ」 レイ・クリングスミス

葛生 RC 会長テーマ

「50年の思いを、地域に発信」 谷 和 文

副会長 奥澤松利 幹事 岩崎昇一郎 副幹事 関口文雄

2010～2011 第2417回 22.11.16 例会場 於：高齢者センター PM 12:30～

葛生RC ホームページアドレス <http://www1.ocn.ne.jp/kuzuu-rc/> メールアドレス kuzuu-rc@luck.ocn.ne.jp

会 長 挨拶



本日は「新蕎麦を楽しむ会」という事で、蕎麦昔話を調べてきました。

「東は蕎麦、西は饅頭(うどん)」と言われ、江戸では蕎麦と相場が決まっていた。しかし、蕎麦の発祥を見ると、実は大阪砂場の蕎麦屋が江戸に進出したらしい。江戸には三千軒を越す蕎麦屋があったとされるが、当時の人口からすれば驚くべき数である。蕎麦は鮎や天婦羅と共に今で言うファーストフードとして、気の短い江戸っ子や参勤交代で殿のお供をしてきた単身赴任の武士たちに利用された。人が移動することで新しい食文化がもたらされることは珍しくない。

保科正之(ほしなまさゆき)は二代將軍徳川秀忠の庶子(しよし)で、家光の異母弟(いぼてい)である。母親は大奥で秀忠の乳母に仕えていた女性で、本妻・於江与(おえよ)の方の目を逃れ、宿下がりして生まれたのが「幸松」こと、後の保科正之である。慶長16年のことであった。幸松は武田信玄の娘たちによって密かに養育され、武田家と縁のある信濃高遠藩主・保科正光の養子となる。



最上義光(もがみよしあき)没後、寛永十三年に山形に入部し、七年して会津若松に移封される。両地ともに蕎麦が名物だが、正之は高遠から信州の蕎麦文化をもたらしたのである。

蕎麦は肥沃でない土地でも育ち、人々の命をつないできた。数年前、天保飢饉のころに備蓄された蕎麦の種子が発見され、「天保の蕎麦」として復活した。その栽培では、良い環境で育たず、むしろ厳しいかんきょうで発芽し、成長したとのことである。そばは忍耐強く、たくましい。我々も、蕎麦のように忍耐強く、たくましく生きたいものです。

ニコニコBOX 報告

中田秀昭 副委員長

谷 和文君

おいしい新蕎麦をいただきありがとうございました。

八下田幸三君

先日は、母の葬儀に際しまして、皆様には大変お世話になりました。

中田秀昭君

妻の誕生祝にすてきな花束をいただきありがとうございました。

会報会 委員長 石原裕之 副委員長 齋藤孝之